

## 7 地域づくりの活動事例

別海町中春別

### (1) 活動の内容

#### ① 取り組みのきっかけ

中春別農事組合（10戸）は、別海町の酪農経営の発展方向を模索するために北海道農業確立事業（通称：ガイドポスト事業）のモデル地区として平成3～4年度に様々な活動を行いました。

スタート当初はどのような取り組みを実施するか試行錯誤の連続でしたが、定期的な検討会を重ねていく内に様々な意見やアイデアが出て事業後半は内容の濃い活動になりました。

#### ② 3年間の活動の流れ

表8 中春別農事組合の活動内容

平成3年	平成4年	平成5年
1月 ○事業検討会 （スケジュール作成） ○定例学習会（施設） 5,6,8月 ○定例学習会（草地） （会館、町内） 9月 ○ヨーロッパ視察 （青年2名が参加） 10月 ○女性九州視察第①班 （長崎、熊本、福岡） 11月 ○定例学習会（育成） 12月 ○視察報告会 （ヨーロッパ、九州）	1月 ○定例学習会（繁殖） 2月 ○植林事業説明会 3月 ○定例学習会（施設） ○郷土の探検隊 （徒歩で地域を散策） 5月 ○女性九州視察第②班 （宮崎、鹿児島、 福岡） ○経営主視察 （上川、宗谷管内） 10月 ○景観講習会 ○女性九州視察第③班 （長崎、佐賀、福岡、 大分県） 11月 ○イメージイラスト作成 （絵描きと打ち合せ） 12月 ○おじいさん、おばあさん の視察 （最新の酪農技術を見る）	1月 ○九州視察報告会 ○市街地との地域づくり 検討会 2月 ○植林説明会 3月 ○イメージイラスト完成 の発表会 5月 ○植樹の実施 （農場内と会館前） コリンゴ、サクラ、 ナナカマド（300本） 6月 ○屋敷周り植林 （10戸で3ha） ○九州婦人との交流会 （種子島から50人が 来町） 10月 ○経営主の樹木の視察 （十勝と網走管内） 12月 ○農場看板づくり （地元の木を使用） 10戸と会館

(2) いろいろな事を吸収した視察研修より

① 夫婦で出かけて見ませんか

日帰りで行ける範囲の視察には夫婦で参加する事で共通の話題を持つことになります。例えば、学んだ技術を採用したい時の判断に非常に役に立ちます。

地域づくりにもいろいろなアイデアが出て来るのではないのでしょうか。

近くの農場でもなかなか夫婦で見に行く機会がなかったようです。



写真7 視察旅行

② 見聞を広げた5泊6日の女性だけの九州視察旅行（旅行中の家族の反応……）

2年間で3班に分かれて実施した女性の九州への研修は大きな収穫がありました。

お母さんたちが5泊も家を留守にすることは家族や乳牛にとっても初めての体験でした。

③ お母さんの声と家族の反応

子供の反応 …	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 子供がカレーライスなど、自分のできる料理を作ってくれた。</li><li>◦ 子供たちが牛舎の手伝いを積極的にしてくれた。</li><li>◦ お父さんが外食に連れて行ってくれた。</li></ul>
経営主の反応 …	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 経営主は奥さんがいない間の作業をスムーズにするためにはどうしたらよいか考える良い機会になった。</li><li>◦ 風邪を引いてしまい作業が大変だった。（特に哺乳作業など）</li></ul>
お母さんの声 …	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 子供達が改めて母親のありがたさを再認識してくれた。</li><li>◦ 旅行をする事で心身ともにリフレッシュした。</li><li>◦ 暖かい地域の農業を知ることができた。</li><li>◦ 北海道には珍しい柿の木に実がなっているのを見ることができた。</li><li>◦ 視察先まで行く途中で細い曲がりくねった道が印象的でした。</li><li>◦ また行ってみたい。</li></ul>

以上のような、様々なドラマがあったようです。

\* 農事組合では、九州旅行が終わってから積立貯金をはじめ、女性は計画的に旅行へ行くようになりました。

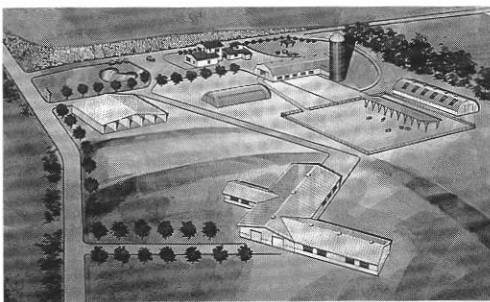
### (3) イメージイラストの作成

#### ① 子供の意見を取り入れたイラストづくり

イラストづくりは、わが家の10年後を目標にスタートしました。ところが、普段からなかなか考える機会がないのでイメージがわかなかったようです。農村景観や木、生活、住宅、建物の色に関する専門家による講習会で、多くの予備知識を吸収してからはアイデアも浮かび、10戸の個性あふれる夢の農場イラストが完成しました。

ポイントは、子供たちの発想をヒントに家族で意見を出し合うことで、より幅の広がったものになりました。完成した絵は、発表会でみんなに披露され、我が農場の夢を語ることで「イラストに近づくようにがんばるぞ!」と、新たな決意表明になったようです。

#### ② イメージイラストの実現に向けて（D型を移動し芝生にした事例）



イメージイラスト（高橋牧場）

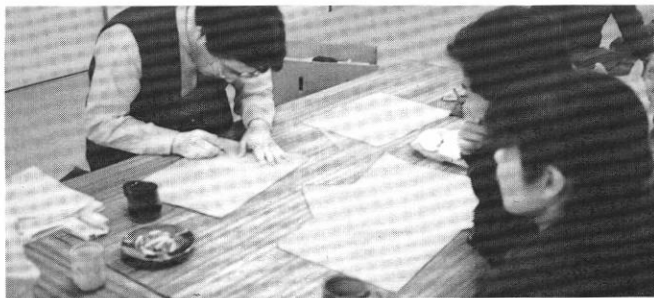


写真8 農場レイアウト作成



写真9 D型を移動する前の状況



写真10 D型を移動し、芝生を造成

#### (4) 屋敷林や防風林のための植樹

- 農場のイメージイラストを作成していると、どうしても農場内に樹木が少ないという声が出てきたので、樹木の専門家から研修会等で知識を得た。
- いままでの草地造成や施設の建設の際に伐採したことで周辺の木が少なくなりすぎた。
- 湿地や傾斜のきつい、使っていない草地にも農業委員会に相談し植林した。
- 森林組合の補助事業を活用しながら、アカエゾマツを中心にした植林を行い屋敷林の整備をした。10戸の植林面積は、合計で3 haになった。
- 農場内を明るくするために、四季折々の花を楽しむための植樹も住宅、牛舎周辺にも行った。植樹した樹種（エゾヤマザクラ、エゾノコリンゴ、ナナカマド）は合計300本。
- 地域の会館の庭にも樹木がないということで敷地周辺にもエゾヤマザクラを20本植樹した。
- 木は数十年のスパンで考えなければならないのでとにかく施設、住宅、草地周辺に植林することを考えた方がよいという意見が多く出てきた。
- たとえば子供の成長に合わせて記念樹を植えることで、我が家の歴史を残す事にもなるし、心が豊かになる。



写真11 会館前の植樹風景

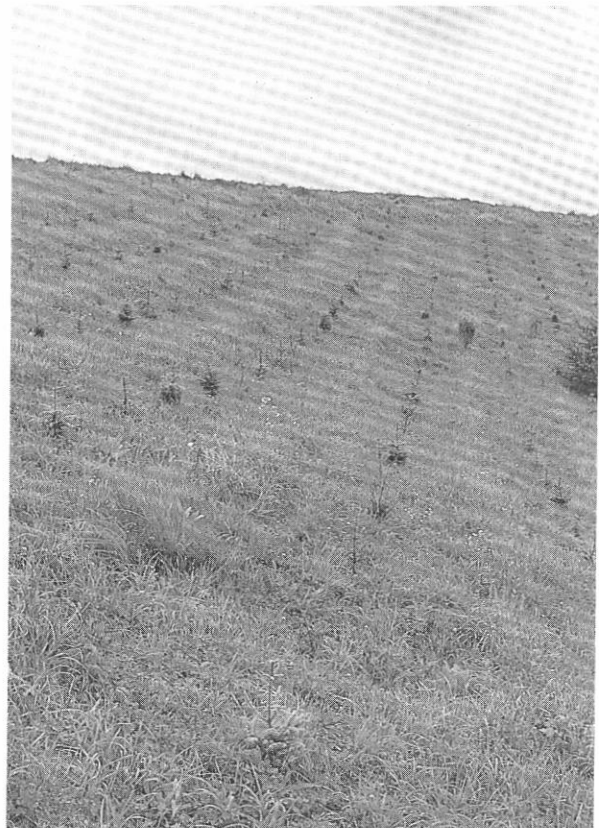


写真12 住宅周辺の屋敷林の植樹

- 地域でも並木づくりを取り組んだ。

自分たちの農事組合を象徴する樹種を選定し集落の周辺に計画的に並木づくりを始めました。中春別市街から小野沼公園までの道路沿にヤマザクラ並木を作っています。